

## ケンブリッジ大学周辺

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学政治経済学部 公開日: 2012-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大森, 正之 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/12512">http://hdl.handle.net/10291/12512</a>

# ケンブリッジ大学周辺

日本人研究者の在外研究先としてポピュラーな、ケンブリッジ大学を擁するケンブリッジ市周辺を、次の四つの側面から特徴づけ印象を述べることで紀行文とします。

## 一、大学街として

大学街としての特徴は、大学の総合図書館と各学部棟（学部は国立）を中心に、街全体に放射状に散りばめられた、二〇以上のカレッジ（独立採算制の学寮）の配置にあります。カレッジは食堂と図書館（多くは教会）を具え、学生は、院生そして一部のフェロー（学寮教官）と共に共同生活をしつつ、学ぶことが義務づけられています。フェローは分担して、所属学生の専攻する学問分野について週一回程度の少人数個別

## 大森正之

指導を行い、さらには勉学と生活の全般についての指導も行います。多くの有名カレッジは観光客に有料で開放され、また、ほとんどが夏期休暇中、所属学生を帰郷させ、東欧、南欧、アジアから短期の語学研修生を受け入れています。当然、筆者のような客員研究員は、総合図書館と全学部の図書館そして全カレッジの図書館が利用できます。さらに家族と友人のカレッジ観光も無料になります。

神田地区は皇居周辺に集中的に緑の空間があります。ケンブリッジは街中央を流れるケム川の両岸に、カレッジ保有の緑地帯や公園やコモンズ（入会放牧地）が多く残されています。一年中緑をたたえ、常に何種類かの花が咲いているように工夫され、多くの水鳥や放牧中の牛などに出会えます。また全カレッジ

の中庭も同様に整備されています。街から若干離れると、カレッジ保有のラグビー場やサッカー場、テニスコートやクリケット・コートが点在し、常に手入れされた芝生で覆われています。

## 二、観光の街として

ケンブリッジの観光名所は、各カレッジに付帯する中庭や聖堂・教会、ケム川です（パントという平底船での川下りはお薦めです）。そして、いくつかの学部付属の博物館（動物学博物館は、筆者のお気に入りです）、フィッツウィリアム美術館、ケインズの母親が設立に協力した小規模美術館と付属の民俗資料館などです。また、南東部、郊外のグランチェスター村まで流れるケム川に沿ったフット・パス（遊歩道）は、ケインズやヴィトゲンシュタインやバージニア・ウルフラの通った散歩道であり、その終点の「オーチャード」と名付けられたオープン・カフェで、観光客は紅茶とスコーンを楽しめます。

大学街であってもケンブリッジは、神田地区と比べて、出版社・古本屋・新書屋が多くあるわけではありません。まして楽器店やスポーツ用具店が連なっても

いません。出版社はケンブリッジ大学出版会があり、古本屋や新書店、楽器店やスポーツ用具店も街に数軒づつ点在しているに過ぎません。

観光客として訪れる日本人に、特記しておかなければならないのは、アジア系の食事処以外は、安くて美味しく清潔で、店員から普通のサービスが受けられるレストランがあまりに少ないことでしょう。大学街の中心にある大学センターの学生・職員・教員用の食堂が、比較的安価で味のまともな（しかし季節感のない）昼食と夕食を提供しており、それがせめてもの救いです。昼食はスーパーやコンビニ、あるいはローカル・チェーン店でサンドウィッチを買って、野外でとるのが一番です。

なお、ケンブリッジ駅から鉄道で十五分ほど北に行くイリー市は、その名の由来どおり、かつてウナギの名産地（ロンドンへ馬車で運搬）だったようです。売上の一部が寄付されて観光名所のカテドラルになったのは歴史的事実です。現在、市内で伝統のウナギ料理は食べられませんが、市の博物館や骨董品屋で見られる、竹で編んだ筒状のウナギ採りの仕掛けは、江戸時代にオランダ経由で日本から伝わったそうです。

### 三、生活する街として

ケンブリッジ市での衣食住、そして子供の学校について若干述べましょう。着るものはナショナル・ブランドのスーパ―が数件あり、ロンドンまで行かなくても何とかなります。救世軍やオックスファムは私にとっては、安くセンスのいい古着（千円前後）の宝庫でした。カレッジの家族用施設では昼食と夕食がとれますが、スーパーや近所の肉屋、パン屋、生協、郵便局付帯の雑貨店で食材を買って、極力自宅で調理するべきでしょう。豚肉や鶏肉などは肉屋さん特製のスパイスで味つけたものが絶品です。魚はスーパーや市庁舎前の青空市場でほぼ毎日買え、サバ、イワシ、タラ、カレイ、スズキ、エビ、カニ、ホタテなどの鮮魚から各種薫製まで、結構多くの種類があります。青空市場の魚屋ステイブン（一号）氏とは懇意になり、日本にはいない西洋小型ニシンの食べ方やウナギの煮ごりの食べ方を教えられました。コメ、味噌、豆腐、納豆は街の南部に点在する中国系あるいは韓国系の食材店で安価に調達でき、ちなみに我が家の朝食はほとんど和食でした。

住宅は、大学のアコモデーション・センターが紹介

する物件がよいと思われまます。筆者は後学のため、街の不動産屋で借りました。管理人ステイブン（二号）氏が信用のおける優れた人物であったにもかかわらず、「この街で最も非常識な隣人」（ス氏いわく）とのトラブルは、住民組合での「追放決議」にまで事を荒立てても、結局、帰国まで解決しませんでした。

小学生の娘は、堀金由美先生ご推薦のニューナム・クロフト小学校（公立の「インターナショナル・スクール」と評判高い）がお気に入りでした。おそらく他の公立小学校でも、各国研究者の子女が、短期で編入学していると思いますが、受け入れ態勢が比較的整備されているようです。娘によれば、なじめるか否かはフットボール・センス次第だそうです。また市中心部の公立中学・高校の放課後を利用して、公文式の塾が開講されており、娘も一年間お世話になりました。ただしインド系の同学年生に算数では負けていたようです。妻は当初、現地（語）になじめず、鬱勃としておりましたが、地区の教会で洋画を習い、さらにカレッジで中国画を習い（研究室・図書館と自宅を往復するだけの筆者に比して）、急速に友人を増やし地域に溶け込みました。

#### 四、釣り場として

筆者は環境経済学研究の一環として、「英国の内水面遊漁制度の魚類資源および生息環境保全機能」なる研究テーマを掲げて、渡英目的としました。そして、隠れた「魚類資源の宝庫」としてケンブリッジ市を在外研究地を選びました。しかし実際、英国では運河と灌漑用（排）水路があるところなら、何処でもコーズ・フィッシング（雑魚釣り）が可能で、独自のロッド・ライセンス・システム（釣り人必携）とその収入源で、魚類と生息地が保全されています。多くの人々は「英国の釣り」と言うと、貴族やお金持ちが行う、北部イングランドとスコットランドでのフライ（疑似針）によるサケ・マス釣りを想起します。しかし労働者・庶民の伝統的な雑魚釣りこそ本来の英国の釣りなのです。対象は、フナ、コイ、ニゴイ、ウナギといった日本にもいる魚種で、パイクやパーチと言ったヨーロッパ固有の魚食魚（ルアーや生きた小魚で釣る）が加わります。残念ながら英国には、日本固有のアユはおりません。三月十五日から六月十五日までの禁漁期間（魚類妊娠中および産後につき安静が必要なため設置）以外、晴れると早朝から二時間ほど釣りをして、



朝食、その後は大学研究室、というのが筆者の生活のパターンでした。釣果については直接おたずね下さい。釣り逃がした魚についての長い不毛な話が楽しめます。

い。

##### 五、おわりにかえて（お礼申し上げます）

今回の在外研究には、既に述べました堀金先生からの様々な情報支援、西川伸一先生からの英国仕様の炊飯器などの現物支援、外池力先生からの「ロンドン古本屋マップ」のご提供、高橋一行・山内建治両先生からの英文履歴書作成上の助言など、頂きました。また、その他の先生方からも多くの助言を頂きました。記して感謝します。また留守中は多くの先生方にご迷惑をおかけしました。特に新田功、藏本忍、岡先生には、不在中に出版した共訳書や編著にかんし、多大なご迷惑をおかけしましたこと、記して謝罪と感謝を表します。

なお現在、西川先生の炊飯器と筆者が秋葉原で購入しました英国仕様のファクシミリ・マシンが自宅にございます。今後、英国に在外研究に行かれる先生方に、当然、無償でお譲りいたします。是非ご連絡下さ